

## 教材データベース構築における数値情報と文字情報の整合性について

発表者 寺尾敦（青山学院大学） 吉根勝美（南山大学） 野崎浩成（愛知教育大学）  
山住富也（名古屋文理大学） 長谷川信（岐阜聖徳学園大学短期大学部）

オーガナイザ 吉根勝美（南山大学） 野崎浩成（愛知教育大学）  
長谷川信（岐阜聖徳学園大学短期大学部） 磯本征雄（名古屋女子大学）

あらまし：eラーニング教材では、属性の異なる情報が、データ構造上、密接な関係を持っています。教材作成者は、教育上の効果を考え、異なる属性の間にも何らかの整合性を持たせているはずであり、既存教材のデータベース化においても、そうした意図が反映されるべきです。本ワークショップでは、特に数値情報と文字情報の整合性に注目し、eラーニング全般にわたり、様々な立場から議論します。

キーワード：東海支部、統計教育、日本語教育、プレゼンテーション能力育成、食事調査

### 1. ワークショップの目的

前回の全国大会では、「e-Learning教材の共有化における諸課題の解決に向けて」と題したワークショップを開催し、知識共有に関する講演といくつかの事例報告を行い、学習教材の共同利用を実現するための議論を行いました。

昨年のワークショップでの議論を引き継いで、今回は、eラーニングにおける数値情報と文字情報に注目します。学習者の理解促進のために、静止画像、動画像、音声、CG等によるマルチメディア教材がたびたび使われますが、文字情報や数値情報の重要性は、言を俟たないところです。しかも、eラーニング教材では、属性が異なる数値と文字が、データ構造上、密接な関係を持っています。例えば、統計データは、単なる数字の羅列ではありません。文字情報が入って初めて、その数字が何を示しているのか分かります。

属性の異なる情報が共存する教材において、教材作成者は、教育上の効果を考え、異なる属性の間にも何らかの整合性を持たせているはずですが、今後のeラーニングの普及を考えると、既存教材の共同利用を促進するにあたり、このような教材作成者の意図についての共通認識が求められます。

このワークショップでは、教育システム情報学会東海支部の活動のひとつである“eラーニング勉強会”の報告を兼ねて、教材データベース構築における数値情報と文字情報の整合性にまつわる諸課題について、全国大会出席の会員諸兄と共に、様々な立場から議論する予定です。

### 2. 背景

同世代の半数近くが大学へ進学する時代を迎え、大学教育・生涯学習におけるeラーニングによる学習支援の充実が求められています。教材共有は教育の質保証につながるとして、東海支部では、eラーニング化を前提とした学習教材の共同利用に関する課題に取り組んでいます。昨年に引き続き、東海支部の活動が全国の会員と共有できる好機となること

を願って、教材の共有利用の促進にまつわる取り組みの報告と議論を行います。

今年は、議論の対象を具体的にするため、教材に見られる数値情報と文字情報を中心に企画します。属性の異なる情報が整合性を保ちながら共存する状況は、教材データベースを構築する上で、考慮すべき事項です。なお、ワークショップ当日は、教材には限定せず、eラーニングやeポートフォリオ全般にわたって議論の対象を幅広くとります。

### 3. 報告と議論の内容

ワークショップの前半では、テーマにまつわる課題について、5名の登壇者より報告を行います。

- ・「ICTを活用した統計教育」（寺尾）：最新のICTを駆使して実施している統計教育の現状を報告するとともに、専門の立場から問題を指摘します。
- ・「統計レポートの文章作成支援」（吉根）：統計データのレポート作成における課題を報告します。
- ・「日本語教育のためのICT用語辞書の作成におけるコーパスの活用」（野崎）：カタカナ語を苦手とする外国人留学生対象の日本語教育を報告します。
- ・「プレゼンテーション能力育成のためのiPadやPCを使ったeポートフォリオの活用」（山住）：プレゼンテーションの他己評価・自己評価の事例と今後の展開について報告します。
- ・「食事調査における画像・数値・文字の整合性」（長谷川）：栄養指導のため、実際の食事を記録するときに生じる諸課題を報告します。

ワークショップの後半では、テーマにまつわる諸課題を、参加者のみなさんと共有し、様々な立場の方々を交えて議論を行います。

今後は、科学研究費補助金(23300300)「計量言語学的手法を用いたコーパスからの漢字特徴量抽出と新常用漢字の教育実践的研究」および学術研究助成基金助成金(23501183)「創造的思考力訓練を目的としたeラーニングの授業設計とその教育教材の開発研究」の助成を受けて、研究を進めていきます。